

全学的な教学マネジメントに向けた情報通信技術(ICT)活用

ICTを活用した教員相互によるシラバス点検への取組み

金沢工業大学

シラバス作成は、全て Web システム「学習支援計画書登録システム」にて行っている。その上で、シラバスが学習目的に沿って作成されているかを点検するために、教員相互による確認・点検が図れるシステムを導入しており、最終的に各教育課程及び学系の主任が確認と承認をシステム上で行った後に学生へ公開される。

1. 背景

学習支援計画書（シラバス）作成の目的は、カリキュラムを通じて大学の教育理念を実践することにある。そのためシラバスには、各授業科目の目的、学習・教育内容を明示し、学生自らが積極的に学習できるような「学生中心型の教育」への展開を図るとともに、大学として社会からの評価に耐え得る自己点検・評価の一環として、授業内容を公開し、教育機関としての責任を明確にするものである。そのため、各教員は、学生の立場に立ち、教員がお互いに教育の質の検証と内容の精査をシラバスを通じて継続的に図ることが重要である。また、アクティブラーニングを実践する上でも必要な情報をシラバスから学生に提示する必要がある。本学では、学生の総合力を高めるスパイラル型学習プロセス「CLIP」の概念、地域連携や産学連携の取組みなどをシラバスに盛り込んでいる。これらシラバス作成の目的を達成するために、Web システムによるシラバス管理システムを運用している。

2. 取組内容

学部・大学院のシラバス作成は、全て Web システム「学習支援計画書登録システム」にて行っている。当システムでは、シラバスに記載される科目の基本情報、学習・教育目標、学生の行動目標、評価内容、標準的な達成レベル、各週の授業内容や課題等を科目担当者がシステム上で登録する。また、シラバスに記載された教科書や参考図書の登録と手配もシステムで処理している。学期末に行う授業アンケートの一部質問項目は、シラバスに登録された学生の行動目標が自動設定され、それをもとに科目の達成度について学生・教員相互に確認のできる設計となっている。

学習支援計画書管理システム

学習支援計画書の登録

学習支援計画書は提出済みです。内容の更新のみ可能です。

授業科目区分	科目名	単位数	科目コード	開講時期	履修方法
修学基礎教育課程	修学基礎A	2	G001-01	1期(前期)	修学支援計画書4条を参照

担当教員名	研究室	内線電話番号	電子メールID	オフィスアワー

授業科目の学習教育目標

キーワード	学習教育目標
1. IITポर्टフォリオ	本学での学習や生活に意欲的に取り組むため、学習環境と学生生活に思い入れを醸成し、学習や生活スタイルを身に付けることができる。自己管理や共同の実践を通してその重要性を認識し、本学生として学習や生活に取り組む正しい能力を「修学ポर्टフォリオ」などの活用を通して身につけることができる。所属する学科の専門領域を理解し、学習目標の設定と達成のための計画を設計し、「修学ポर्टフォリオ」などの活用を通してキャリアデザインの意識を高め、自己実現へと積極的に行動する態度を身につけることができる。
2. 大学での学び方	
3. 授業計画	
4. キャリアデザイン	
5. 個人面談	

授業の履修および学習上の留意

- 毎日「1週間の行動履歴」を記録し、IITポर्टフォリオ (web) に入力することやカウンセリングセンター講話の聴講を通して、自己管理能力を高める。
- 1年次後学期以降の履修計画を立てられるよう、本学の教育課程（修学基礎教育課程・英語教育課程・理工基礎教育課程・基礎実技教育課程・専門教育課程）と教育制度についての理解を深める。
- 学長講話・学生部長講話を聴講し、「IIT DREAMS」や「学生宣言」の意味や意義を視範意識を含めて理解することで、本学生としての意識、および、修学に対する意欲を高める。
- 正しい日本語表現力、文章・小論文作成およびグループ対話の基本的な技法を学習し、身につける。また、本学の施設等の機能と利用法を確認して、自学自習の意識を高める。
- キャリアデザインに関する講義の聴講、キャリアポर्टフォリオの作成、キャリアデザインの観点を含む小論文の作成を行い、キャリアデザインの必要性を理解する。
- 「新聞ポर्टフォリオ」の作成を通して、社会問題などへの関心を深める。
- 学習・生活など、修学全般についての個人面談を行う。

①出席・提出物の締切を守ることは特に厳しく評価する。
②科目のホームページを確認すること。URL: <http://edu.kanazwa-u.ac.jp/shupaku/>

➔

承認

平成27年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名	単位数	科目コード	開講時期	履修方法
修学基礎教育課程	修学基礎A	2	G001-01	1期(前期)	修学支援計画書4条を参照
修学基礎科目	Basic Style for Study A				
修学基礎					

担当教員名	研究室	内線電話番号	電子メールID	オフィスアワー

授業科目の学習教育目標

キーワード	学習教育目標
1. IITポर्टフォリオ	本学での学習や生活に意欲的に取り組むため、学習環境と学生生活に思い入れを醸成し、学習や生活スタイルを身に付けることができる。自己管理や共同の実践を通してその重要性を認識し、本学生として学習や生活に取り組む正しい能力を「修学ポर्टフォリオ」などの活用を通して身につけることができる。所属する学科の専門領域を理解し、学習目標の設定と達成のための計画を設計し、「修学ポर्टフォリオ」などの活用を通してキャリアデザインの意識を高め、自己実現へと積極的に行動する態度を身につけることができる。
2. 大学での学び方	
3. 修学設計	
4. キャリアデザイン	
5. 個人面談	

授業の履修および学習上の留意

- 毎日「1週間の行動履歴」を記録し、IITポर्टフォリオ (web) に入力することやカウンセリングセンター講話の聴講を通して、自己管理能力を高める。
- 1年次後学期以降の履修計画を立てられるよう、本学の教育課程（修学基礎教育課程・英語教育課程・理工基礎教育課程・基礎実技教育課程・専門教育課程）と教育制度についての理解を深める。
- 学長講話・学生部長講話を聴講し、「IIT DREAMS」や「学生宣言」の意味や意義を視範意識を含めて理解することで、本学生としての意識、および、修学に対する意欲を高める。
- 正しい日本語表現力、文章・小論文作成およびグループ対話の基本的な技法を学習し、身につける。また、本学の施設等の機能と利用法を確認して、自学自習の意識を高める。
- キャリアデザインに関する講義の聴講、キャリアポर्टフォリオの作成、キャリアデザインの観点を含む小論文の作成を行い、キャリアデザインの必要性を理解する。
- 「新聞ポर्टフォリオ」の作成を通して、社会問題などへの関心を深める。
- 学習・生活など、修学全般についての個人面談を行う。

①出席・提出物の締切を守ることは特に厳しく評価する。

【図1】

本学の「教育理念、学習目的に沿ってシラバスが作成されているか」、「シラバスに登録されている各項目の内容が適切であるか」を点検し、各教育課程及び学系の主任が最終確認と承認をシステム上でを行い、その上でシラバスが学生へ公開される仕組みとなっている。(図1)

3. 効果

シラバスには大学の教育理念、各学科の教育目標や全学で展開する標準学習プロセスなど、教育で実践すべきことが盛り込まれているが、それらが反映された授業となっているかを教員相互による確認・点検が図れるシステムを導入したことで統一的な運用を進めることができた。

また、シラバスを基準とした学生授業アンケートや教員による授業の自己点検・評価を行っており、これらを総合的に確認・評価することで教育に対する継続的な改善を行っている。

4. 今後の展開

学生の能動的学修の促進と学修意欲向上を目指すため、正課と正課外の学修を連動させたアクティブラーニングを展開する上で、シラバスを主軸教材として位置づけ、学修の起点としての機能を盛り込んだeシラバスに発展させることを計画している。

授業に対する興味・関心を喚起して学修成果を向上させるために、大学内で行われているプロジェクト活動や地域連携・産学連携での活動内容などをコンテンツとしてeシラバスからアクセスできるようにする。また、eラーニングの教材や学修課題、ポートフォリオ、授業教材の配信など、授業に関連する事柄をeシラバスで網羅し、学生・教員共通の学習起点（ポータル）としての活用を考えている。これらの学修履歴や成果物を一括管理することで学修支援はもとより、学修成果の可視化にも繋げることを計画している。(図2)

